

---

# バカたちの温泉旅行

SHIN

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカたちの温泉旅行

### 【Zコード】

Z6402V

### 【作者名】

SHIN

### 【あらすじ】

幸運？にも温泉団体チケットをあててしまつた雄一  
そんな訳でいつものメンバーで温泉に行くことになった  
温泉旅行ではいったいなにが起つるのか？？

すみません

本当は連載です

ぜひそつちも見てください。

(前書き)

作者の頭は色々残念な上文章力が皆無なので色々悲惨な部分があるとおもいます。

一応明久×姫路にしたいと思つています。

駄文になること間違いないですがよろしくお願ひします！！

? ? ? s.i.d.e

やべえまさか温泉団体チケットを当たっちゃうなんて……  
隠してもどうせすぐ翔子にばれちまつ……  
いつなつたらあいつらも巻き込んでやる

（金曜日の放課後）

「明久温泉に行かないか？」

「……雄二浮気は許さない」

「ぐああああ」

霧島さんは雄二にアイアンクローラーを決めていても絵になるな  
とつそんなことよつ

「雄二僕にそんなお金がないこと知ってるよな？」

「その点なら問題ない昨日べじ引きで団体温泉チケットが当たった  
んだ」

雄二アイアンクローラーをされながらしゃべれるなんてやられなれてる  
ね……

あつなんか霧島さんから黒いオーラーみたいのが見える

「……どうして私を誘ってくれないの？」

「翔子落ち着け団体と言つてさきやあああああ

「本当に霧島さんは雄二一筋だね」

「明久くんやつぱり坂本くんと・・・」

「なに言つてゐる姫路さんぼくはちやんと異性につて美波僕の肘はそつちには曲がらないよおおおお」

「バキュわよなうぼくの右肘

「全くお主らはいつも騒がしいの」

「・・・撮影のじやいや何でもない」パシャパシャ

「ムツツリーーくんそんなに女の子の写真を撮りたいなら僕がモデルになつてあげよーか?」

「・・・自惚れるなおまえには興味ない」

「そつか残念だねせつかく今田はスペツツをはいてないのに」チラツ

「ブシャアアアアア

「全くお主らはお主らでよう飽きんのつして雄二よ団体と言つておつたが何人まで行けるのじや?」

「8人までだからここにいるメンバーでいいだろ」

「雄二そんな勝手に決めたらダメだよ。姫路さんは大丈夫?」

「はい私は大丈夫です 」

「／＼＼＼それはよかつた  
やばいあの笑顔は直視できない

「ウチも大丈夫よ」

「ワシも今週は部活がないから大丈夫じゃ」

「・・・問題ない」

「僕も大丈夫だよ」

「よし決まりだな  
じゃあ俺の家に明日の朝8時に集合で大丈夫か？」

「ん~僕は場所がわからないからムツツリーーー君案内お願ひね」

「クリ

「・・・明日ここに7時集合で大丈夫か？」

「うん大丈夫だよ」

「明日遅れたら置いていくから遅刻するなよ特に明久」

「大丈夫だよ」

「それならいいじゃあもつ今日は帰るか明久いつものように頼んだ  
ぞ」

「了解」

「帰り道」

明久 side

清涼祭の事件以来姫路さんと一緒に帰つてゐるけどこの時間はとつてもいきやされる

「明久くん温泉楽しみですね」

「うんとつても楽しみだよ」

「明久くんはよく温泉とか行くんですか?」

「昔はよく行つたけど最近は行つてないかな」

「そうなんですか

実は私温泉初めてなんですよ」

「えつそつなのー?」

「はいだからどんな物を持つて行けばいいかわからなくて」

「それなら大丈夫だよ  
着替えさえあれば何とかなるよ後は自分の好きな物を持つてくれるだけいいよ」

「わかりました」

「荷物は結構な量になるから、運んでよければ荷物運び手伝おうか？」

「そんなの悪いですな」

「気にしないでいいよ。せめてはいとん」としかできなから

「……そんな」とありますよ」

「「めん姫路わんよく聞けなかつたよ」

「気にしないでください」と  
えつとじやあお願いしてもいいですか？」

「やうやう

「お願ひします

じやあ私につけなので」

「家まで送りななくて大丈夫？」

「すぐそこなので大丈夫ですよ」

「じゃあ明日は7時30分にこの場所でいい？」

「はい明久くん遅刻しちゃダメですよ」

「任せでまた明日ね姫路をさ」

「うこうこうほくは歩を出つた

まつて今考えて見たらぼくとつても大胆だつた！？  
やばい顔が赤くなつてきた気がする

・・・まあいつか大好きな姫路さんと一緒にいれる時間が増えたん  
だから

そつと決まつたら今日は早く寝よ

side out

姫路 side

私の密かな楽しみ

それはわかれた後の明久くんの背中を見つめる」と  
さつき明久くんは「こんなことしか出来ないなんて言つてましたがそ  
んなことありませんよ

明久くんは私に色々な大事なものをくれていますよ  
私はそんな明久くんが大好きです

この思いを伝えたら明久くんはどうしますか？

もしかしたら距離を置かれちゃうかもしれませんね  
でもいつかこの気持ちを伝えますから待つていてくださいね

こづして夜は更けていつた

(後書き)

我ながらぐれやぐれやですねはい・・・・・・・  
こんな文章につきあつていただきありがとうござります。  
感想などお待ちせております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6402v/>

---

バカたちの温泉旅行

2011年10月9日11時48分発行